

<p>研究課題名 癌関連線維芽細胞の筋線維芽細胞への分化による腫瘍進展促進 ：PAI-1の関与の検討</p>
<p>研究責任者名 広島大学病院呼吸器内科 助教 益田 武</p>
<p>研究期間 2015年11月11日(倫理委員会承認後)～2020年3月</p>
<p>対象者は以下の全てを満たす患者さんです。 2002年1月から2018年2月までに当院で肺癌の根治的外科手術を受け、肺腺癌と診断された患者さん。および、研究に血清を利用する場合は、疫学研究 E 疫-M326-10号「呼吸器疾患における血清マーカーの臨床的有用性に関する研究」、研究に胸水中の線維芽細胞を利用する場合はヒトゲノム・遺伝子解析研究 第ヒ-155「肺癌への個別化免疫療法開発のための探索研究」に同意された患者さん</p>
<p>意義・目的 肺がんの進行において、がん組織内に存在する線維芽細胞(がん関連線維芽細胞)の役割が注目されています。Plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1)は、主に我々の体内で過剰な出血を抑制する機能を持つタンパクですが、肺線維症の研究では、肺の線維芽細胞の筋線維芽細胞への分化に関わり、肺線維症を進展させることが報告されています。 これらの研究成果を踏まえて、本研究では、PAI-1が肺線維症において線維芽細胞の筋線維芽細胞への分化に関わるのと同様に、肺がん組織内のがん関連線維芽細胞の線維芽細胞への分化にも関与し、その結果として肺がんの進行に関わるかどうかを明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
<p>方法 本研究は、診療録(カルテ)から得られた臨床データと手術で採取した病理検体を利用して研究を行います。また、疫学研究 E 疫-M326-10号「呼吸器疾患における血清マーカーの臨床的有用性に関する研究」で同意を頂いて、血清を保存させて頂いている患者さんでは、血清を利用します。ヒトゲノム・遺伝子解析研究 第ヒ-155「肺癌への個別化免疫療法開発のための探索研究」に同意を頂いている患者さんでは胸水の残余検体を利用します。まず、肺がん組織内の PAI-1 と線維芽細胞マーカーの発現に相関があるかを検討します。続いて、これらの発現量と血清中の PAI-1 濃度が肺がんの進行度や予後を含む臨床データ(性別、年齢、喫煙歴、腫瘍の大きさ、リンパ節転移の程度など)に関係があるかを検討します(個人を特定可能な情報は解析に用いません)。胸水の残余検体から線維芽細胞を抽出し、その線維芽細胞に PAI-1 阻害剤を添加した際の遺伝子や蛋白発現量の変化を調べます。</p>
<p>共同研究機関 ありません。研究責任者 広島大学病院 益田武が解析をします。</p>
<p>試料・情報の管理責任者 広島大学病院 助教 益田武</p>
<p>個人情報の保護について 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形</p>

で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に臨床データや試料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5196

広島大学病院呼吸器内科 助教 益田 武

研究機関：広島大学